

<外国語>

# 自己表現力を伸ばす指導の工夫 — コミュニカティブライティングを取り入れた言語活動を通して —

南城市立知念中学校教諭 新 垣 園 子

## I テーマ設定の理由

今日の社会の急速な国際化・情報化に伴い、それに対応できる人材の育成が求められている。文部科学省が2003年に発表した『英語が使える日本人』の育成のための行動計画によると、「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」との目標が掲げられ、それに基づいて県教育委員会においても実践的コミュニケーション能力の育成の促進のため、沖縄県長期計画(H14-23)の第2次沖縄県教育推進計画(H17-19)で具体的に策定されている。また学習指導要領の外国語の目標では「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」とあり、学校教育においても生徒の国際社会へ適応するためのコミュニケーションの手段としての英語力の育成が尚一層求められている。

では実際の生徒の英語に対しての意識はどうだろうか。生徒の実態を把握するために平成17年に2学年を対象にアンケート調査を実施した。英語が話せるようになりたいと回答した生徒が80%おり、英語によるコミュニケーションに対する関心の高さが伺える。しかしその反面、生徒が苦手とする活動は、話すことが33%、書くことが40%という結果が出た。特に書くことに関しては、平成17年度達成度テストにおける書くことの正答率が51%で、前年度と比較して落ち込んでいることや、昨年度の県立高校入試において、書くことの領域の正答率が41%と、結果が予想を大幅に下回ったことにも、技能の定着が不十分であることが表れている。また先述のアンケートの回答において、生徒は「単語が書けない、話せない」と答え、語彙力などの基礎的・基本的事項の定着の不足から、話したり書いたりする自己表現に対して消極的になっているのではないかと考える。

中学校における指導の具体的目標は、聞いたり話したりする音声によるコミュニケーションを重視したものとなっているが、その指導と、書くことの指導を併せて行うことで、基礎的・基本的事項の定着が促され、伝える目的を持つコミュニケーションを取り入れた自己表現活動の工夫により、生徒の積極的なコミュニケーションに対する態度を養うことができると考える。英語を話したり書いたりすることで、自分のことが相手に伝わった時の感動は大きい。その感動を自己表現に対する自信につなげコミュニケーションに対する前向きな態度を養っていききたい。基礎的・基本的事項の定着を目指しつつ、自己表現力を伸ばすための指導の工夫を通して、より効果的な授業を実践したいと考え、本テーマを設定した。

### <研究仮説>

音声指導に書くことを併せた指導で、効果的な基礎的・基本的事項の定着を図り、コミュニケーションを取り入れた言語活動を行うことで、生徒の自己表現力が伸びるであろう。

## II 研究内容

### 1 自己表現力について

#### (1) 自己表現力の捉え方

中学校学習指導要領では、『実践的コミュニケーション能力』とは、単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を持っているというだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力のことであると表記されている。話し手と聞き手がお互いに意思の疎通をすることがコミュニケーション活動であり、会話であれば聞くことや話すこと、また手紙などの文章によるコミュニケーションであれば、読むことや書くことの要素が含まれる。

一方自己表現力は、自分自身やまわりの事柄について話したり書いたりして表現することである。田中武夫(2003)によると、自己表現力は「自分の思いや考えを伝える能力で、相手の考えや思いをくみ取って行動したりすることも、自己表現力に含まれる」とされる。英語によるコミュニケーションの場において、生徒がさまざまな情報を理解し、状況を判断、さらに相手を想定して自分なりの思いや考え、自分の立場などを話したり書いたりして表現することを、ここでは自己表現力と捉える。

## (2) 自己表現力を伸ばす指導

教室におけるコミュニケーション活動とは、生徒が学習した英語の語彙や文型の定着を目指し、それらの表現を使用する場面設定のもと、英語を使用して行われる言語活動である。これまでの授業でもコミュニケーション活動として行ってきたが、与えられた語彙や文型を使用して行われる機械的な練習となることが多く、その場面設定が生徒の実態や興味・関心に即した題材とは言えず、実用的ではなかったことも多々あった。生徒に関連のない場面での言語活動を行っても、生徒は実際的な使用場面がイメージできず、機会的な練習で終わりになり、実践的コミュニケーション能力の育成には結びつかない。生徒の基礎的基本的な語彙や文型を定着させるためには必要なドリルの活動であるが、自分の思いや考えを伝える自己表現力の育成のためには、ドリルの活動を行った後の発展的指導として、自分の思いや考えを伝えるための手段としての、自己表現活動の工夫が必要となってくる。

自己表現力を伸ばす指導にはまず、生徒が、英語で話してみたい、書いてみたいと思わせる題材の選定が必要である。生徒にとって身近な話題であれば、それを英語でどう表現すればいいのか知りたいと思ひ、さらに題材の工夫により表現に対する興味を持たせ、それをコミュニケーションへの動機付けとし、自己表現力の育成につなげていきたい。

表 1 言語活動の工夫のポイント  
(田中2003 参考)

田中(2003)は、自己表現力を伸ばすための言語活動の工夫のポイントとして4つあげている(表1)。まず実際の言語活動としてあり得そうな状況を想定した題材を提示し、具体的に言語使用の場面をイメージさせ、その場面が生徒に関連のあるものであり、さらに生徒の表現したいことが自由に表現できることが必要となってくる。

- |                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・必然性を高める</li><li>・具体性を高める</li><li>・自由度を高める</li><li>・自己関連性を高める</li></ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

中学校低学年における自己表現活動は、学習する語彙や文型の範囲が限定されるので、場面により適宜、使用が想定される語句を提示し、表現の幅を広げられるような工夫がカギとなる。生徒にとって身近な場面における語彙や文型を整理し、言語活動の場面によってそれらを提示できるよう、整理が必要となってくる。実際の検証授業では、学校生活における語句や紹介の表現についてのリストを作成・提示し、それとともに辞書の活用などを勧める。生徒たちの知識が増えることで表現の幅が広がり、より積極的にコミュニケーション活動を行うことができるのではないかと考える。

## 2 書くことの指導について

### (1) 基礎的基本的事項について

基礎的な能力とは「単語や文法の単なる知識ではなく、それらを十分活用して実際に英語を使用する力」と佐野正之(1993)は述べている。つまり知識のみでなくその運用まで含めた力を定着させることが、基礎的・基本的な力の定着ということになる。その基礎的基本的事項の定着について考えてみる。

学習指導要領には、言語材料として、中学校で学習する語彙や文型が示されている。それらの語彙の習得のステップは、語彙の知識を得ることから始まる。聞いたり、読んだりしてインプットされた語彙に対する理解を深め、言語活動において、話したり書いたり練習を繰り返し、それらの知識を実際の使用場面でアウトプットする段階まで高めていく。自己表現においては、自らの思いや考えを表現するために、知識としての語彙が必要である。語彙の指導には、従来の新出語句の指導のような「きちんと読め、書くことができる語彙を増やすこと、そして大ざっぱに知っているという語彙を増やすことの2通りがある」と西山正一(2005)は述べている。後者の語彙は自己表現活動のヒントとなり、言語活動において繰り返し使用することで、正確に読み、書ける段階まで徐々に高められ、実際の場面で使用可能となると考える。このようなステップを踏まえた指導で、基礎的基本的事項の定着を図りたい。

### (2) 音声重視の指導と書く指導の関連

中学校の学習指導要領において外国語の目標が「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」とあることから、授業実践も聞いたり話したりする技能の指導が中心となっている。しかし、先述した達成度テストや県立高校入試の結果を受け書く力の正答率が低迷していることが課題になっていることから、音声重視の指導とともに、書く指導もバランス良く行う必要がある。音声指導に書くことを取り入れることで、書いたものを振り返り、気づきや指摘により間違いを訂正することができ、より正確な言語の知識が養われるのではないかと。大井恭子(2005)は「実際にアウトプットすることにより『気づき』が促進され、言語習得において大きな力となる」と述べ、特に『書く』という行為によりその『気づき』が鮮明になり、文字として残ることにより意識化される」としている。

また話すことの活動は、メッセージ伝達を中心とした活動であるため、その内容が相手に伝わればそ

のコミュニケーションの目的は達成する。つまり音声による伝達では、言語・言語外の要素による伝達技能のfluency(流暢さ)が大切になってくる。一方書くことは文字がメッセージを伝える手段となり、表記されたものが残るため、よりaccuracy(正確さ)が求められる。言語活動において2つの活動を関連付けて行うことで、それぞれの長所が生徒の言語能力の正確さと流暢さの育成につながっていくのではないかと。

このように書くことの重要性を意識した、各技能のバランスの取れた指導実践の相乗効果として基礎的基本的事項の定着が望めると考える。授業の中での書くことの指導はまとめの活動として扱っていることがこれまで多かった。また書くことは時間がかかるものでもある。しかし、書くことの効果を踏まえ、宿題や日記などのノートの活用、またALTの活用など授業外の活動などもあわせて、書く場面を工夫し、生徒の基礎的基本的事項の定着から自己表現力の育成に努めることが必要である。

### (3) コミュニカティブライティングについて

ジーニアス英和辞典によると、communicativeは「コミュニケーションのための」とある。コミュニケーションライティングとは直訳すると、コミュニケーションのためのライティング、つまり伝えるために書くことである。文型の定着のために行う機械的な練習問題(Mechanical Drill)とは異なり、書く目的がある有意味の練習(Meaningful Drill)、つまり読み手を想定し伝えるために書く活動のことである。これまで授業で行っていた書く活動は、文法事項の確認や定着のための機械的な練習問題であったり、写本やスペルを覚えるための練習であったりと、コミュニケーションを目的とする活動ではないこともあった。書く活動に伝えるために書くという目的を持たせる工夫や身近な題材を扱い、書きたいことを書くことを通して、生徒たちの主体的な書く活動への参加が望めると考える。

書くことの最終目標は、生徒自らが思いや考えを英語で自由に書くことであると考え。しかし先に述べたように、学習事項に限りがあるので、書くことに対する抵抗感を軽減するとともに、表現の内容に幅を持たせる工夫をし、自己表現活動を行わなければならない。

表2 書くことの自己表現活動

(田中2003 参考)

はがき、手紙、新聞、スキット、  
Eメール、感想文、レポート、  
詩、物語、ホームページ

田中(2003)は、教科書で扱われる自己表現活動について挙げているが、その中でも中学校の段階で実践できる書くことの自己表現活動についてまとめた(表2)。暑中見舞いや年賀状を英語で作成したり、教科書内容に沿った手紙文、調べ学習などのまとめを英語の新聞やレポートにまとめる活動、感想文、詩、物語の創作や、学校のホームページに英語版を記載するなど、授業での学習内容の発展的な活動として書く活動を行う。またこれらの活動は読み手を想定した課題であるから、読み手からの感想や励ましが今後のさらなる表現活動への意欲となり、継続的な取り組みで自己表現力の育成へとつながると考える。

### (4) 書くことのプロセス

ライティングのプロセスについて、望月(2001)は「プレライティング、ライティング、リライトと大きく3つの要素に分けられる」とし、情報収集や語句や文章等の確認などの準備を十分に行い、実際のライティングの活動、そして書いたものをALTに添削してもらうなどのフィードバックを経て、訂正し書き直し仕上げることを一連のライティング活動と考える。プレライティングの段階において、語句や文章等の確認により情報を得た後、実際に書く活動、さらにその書いたものの添削により自らの間違いに気づき、より正しい英語を身に付けていくことができる。

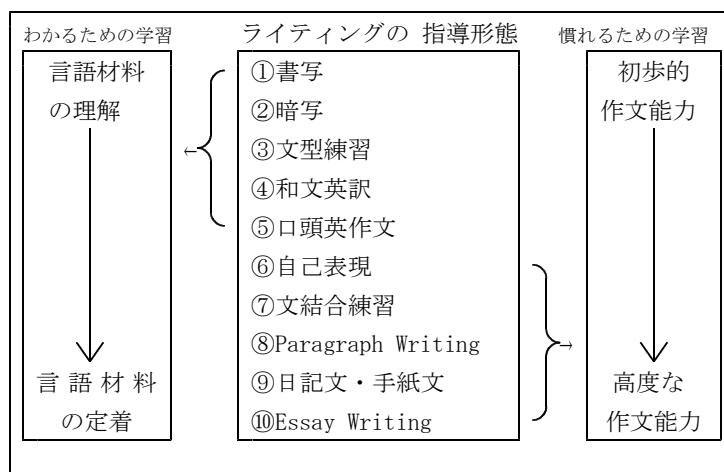


図1 ライティングの指導形態(伊東1999から引用)

このような活動をスパイラルで行うことで基礎的基本的事項の定着が促され、知識が養われることで、表現することへの抵抗感が軽減されと考える。それが動機付けとなり、自己表現活動において英語を繰り返し使うことにより生徒の自己表現力を高めていけるのではないかと。

伊東治己(1999)は、ライティングの指導形態を図1に示すとともに、4技能を指導するに当たっては、『わかるための学習』のみならず、『慣れるための学習』の連携を模索することが肝要になる」と述べ

ている。わかるための模倣的な活動から、より創造的な活動へと移行させる指導形態を取り入れることで生徒の自己表現力を培うことが可能であると考える。

実際の検証授業での活動の流れを図2に示した。語彙や文型の提示や意味確認から発音練習などのドリルの活動、実際の表現活動から発展的活動としてのホームページ作成へと、模倣的な活動から創造的な活動へと指導形態を移行させることで、生徒の自己表現力の育成に迫りたい。

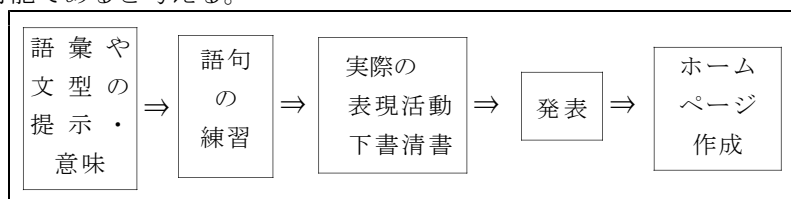


図2 実際の検証授業での活動

### 3 評価について

#### (1) 各観点の評価場面・方法について

杉本義美(2006)は、評価の場面や方法について、「言語活動においては『コミュニケーションへの関心・意欲・態度』、『表現の能力』、『理解の能力』の評価活動を行うことができ、具体的な評価方法は言語活動への取り組みを継続的に観察することで、パフォーマンスの場面での評価、また自己表現課題プリントに取り組む様子を観察すること」としている。言語活動以外の評価としては、「知識・理解」につ

表3 単元における評価方法と観点(杉本2006を参考に作成)

いての評価を、テストやプリントのチェックなどで行うとしている(表3)。また杉本は、「学期や年間という長いスパンの中では、各

| 評価方法<br>観点 | スピーチ<br>発表 | 音読 | ワーク<br>シート | 表現<br>課題 | 小テスト | 言語活動<br>観察 |
|------------|------------|----|------------|----------|------|------------|
| コミ関・意・態    | ◎          | ○  |            | ◎        |      | ◎          |
| 表現の能力      | ◎          | ○  |            | ◎        | ○    | ○          |
| 理解の能力      | ○          | ◎  | ◎          |          | ◎    | ○          |
| 知識・理解      | ○          | ◎  | ◎          | ○        | ◎    |            |

観点の評価規準にしたがって表に示されたような方法を用いて評価する回数が多ければ多いほど、その規準に対する評価の信頼性は高まっていく」と述べていることから、見通しをもった評価計画を立てることが大事である。

#### (2) コミュニケーション活動の評価について

評価することの必要性を松本茂(1999)は、「設定した到達目標をどの程度達成できたのか、また、学習過程のどの部分に困難な点があるかを生徒自身に知らせることで、以後の学習の内容や方法を自ら学び取っていくためのものである。そのために、評価のポイントとして、到達目標やそれを達成するために行ってきた授業内容と表裏一体のもでなければならない、筆記試験で測れる面、コミュニケーション活動を行わせ、教師が観察して評価することの2つがある」としている。

また、自己表現力を伸ばすことを目的とした授業においての評価について、「生徒のやる気を促すようなポジティブな面を評価することがポイントとなる」と松本はコミュニケーション活動の評価として、肯定的評価を提言している。否定的に間違いなどを指摘するより、褒めたり、良いポイントを指摘したりと、生徒のやる気を起こさせるような前向きな評価であることが望ましいと言える。

さらに、特に書くことの評価に生徒同士の相互評価を取り入れ、お互いの感想を共有できると、自分では知らなかったことに気づき、また友達の作品が刺激となり、以後の活動への励みとなる。

コミュニケーション能力の育成のための授業実践の前に、授業内容について表4のポイントを確認する。常に指導を振り返りながら評価し、次の実践へとつなげていく。その繰り返しでより効果的な指導の工夫が、生徒の自己表現力を伸ばすために必要不可欠だと考える。

#### (3) 指導の評価

##### ① 教師自身の評価

松本(1999)は、「生徒のコミュニケーション能力を評価する際に、教師側の課題を点検しておく必要がある」と述べている。コミュニケーション能力の育成のための授業実践の前に、授業内容について表4のポイントを確認する。常に指導を振り返りながら評価し、次の実践へとつなげていく。その繰り返しでより効果的な指導の工夫が、生徒の自己表現力を伸ばすために必要不可欠だと考える。

表4 授業内容のポイント(松本1999を参考に作成)

- ・達成目標を明らかにしているか
- ・コミュニケーション活動を行っているか
- ・生徒へのフィードバックがあるか

##### ② よりコミュニケーション活動をめざして

授業における指導を振り返り、より良い指導実践にするために、指導の評価をすることは重要である。生徒の自己表現力を伸ばすための指導であるために、授業にコミュニケーション活動を行うこと

は当然のことで、授業で扱うコミュニケーション活動の質についての配慮が必要となる。よりコミュニケーション活動を目指して、授業で行う活動を分析する方法について考えてみたい。

指導の改善の視点として、影浦攻(2006)によるCommunication Diagram(図3)を活用し、それぞれの活動を分析する。授業で実施するDrill(練習)やコミュニケーション活動の性質を見極めるための1つの有効な方法である。ダイアグラムの横軸を、recognition(認識)からproduction(表現)、縦軸をimitation(模倣)からcreativity(創造)と、それぞれの軸に沿って活動を分析する。Dの範囲は、ドリル的な性質が強く、理解を深めるための活動となり、対極にあるAの範囲は、より創造的な活動で、コミュニケーション活動の視点はD→C→B→Aとなる。生徒の自己表現力育成のためには、語彙や文型の理解や定着のためのドリルを十分に行った後自己表現活動を行う。その一連の活動のそれぞれの性質を、目的に合ったものかどうかを判断するための目安として活用できる。

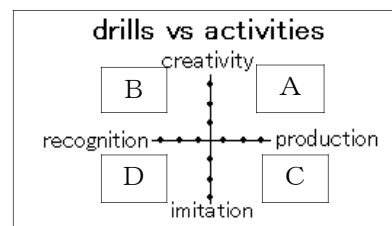


図3 Communication Diagram  
(影浦2006を参考に作成)

### Ⅲ 指導の実際

1 単元名 Writing Plus 1 「学校のホームページ」 New Horizon English Course Book 1

#### 2 単元の目標

- (1) 必要な情報を整理したうえで、自分の学校を紹介する英文を書くことができる。
- (2) 書いた学校紹介文をもとに口頭で伝えることができる。
- (3) 既習事項を復習し定着を図る。

#### 3 学習内容

- (1) 中心技能 書くこと、話すこと
- (2) 使用場面 学校紹介のホームページ作成
- (3) 働き 学校を紹介する英文を書き、それをもとにALTなどに口頭で学校を紹介する
- (4) 工夫 情報を収集し整理する

#### 4 単元の評価規準

##### (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ① 先生の学校紹介や他のグループの発表を聞いて理解しようと努めている
- ② 学校紹介のホームページの発表に進んで取り組むことができる
- ③ ホームページに関心を持ち、わからない語彙も推測しながら理解しようと努めている
- ④ ホームページ作成に関心を持ち、集めた情報や辞書などを活用しながら積極的に書くことができる

##### (2) 表現の能力

- ① 学校について、正しい英語を使い、書いたり話したりすることができる
- ② 学校について、適切な表現を用いて紹介することができる

##### (3) 理解の能力

- ① 先生の学校紹介の内容を正しく聞き取ることができる
- ② 学校紹介のホームページの内容を正しく読み取ることができる
- ③ ホームページ作成に必要な内容を読んだり聞いたり理解することができる

##### (4) 言語や文化についての知識・理解

- ① 学校紹介の場面や状況に適した語彙や文型の知識を身につけている
- ② 学校紹介に必要な情報を整理しまとめることができる

#### 5 学習過程と評価計画(4時間)

| 時間 | 学習目標                                                                                                                                                    | 学習内容                                                                                                                                        | 評価の観点 |   |   |   | 評価方法                                                                                      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                             | 関     | 表 | 理 | 知 |                                                                                           |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容について理解できる</li> <li>・先生の学校紹介や他校のホームページに関心を持ち理解しようと努める</li> <li>・先生の学校紹介や他校のホームページを聞いたり読んだりして理解できる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習、目標、評価について知る</li> <li>・ALTの学校紹介を聞く</li> <li>・他校のホームページを閲覧し特徴を読み取りホームページについての情報を収集し新</li> </ul> | ○     |   |   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・ワークシート①</li> <li>・ワークシート②</li> </ul> |

|         |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                       |   |   |                                                                                                 |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                                                                                                                                                      | 関にまとめる                                                                                                                                                |   |   |                                                                                                 |
| 2       | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内容を理解できる</li> <li>ホームページ作成に役立つ語彙や文型を整理し作成に備える</li> <li>ホームページ作成に関心を持ち、情報収集に努める</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容について理解する</li> <li>ホームページ作成に必要な表現を復習し、それを使った表現活動に取り組む</li> <li>ホームページ作成のための学校についての情報収集をする</li> </ul>      | ○ |   | ・ワークシート③                                                                                        |
| 3       | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した語句の聞き取ることができる</li> <li>学校について収集した情報を整理し学校紹介の文を書くことができる</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した語句を使った文章を読み上げクイズを行う</li> <li>集めた情報を整理し、学校のホームページの下書きに取り組む</li> </ul>                                       | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>語句クイズ</li> <li>ワークシート④</li> <li>観察</li> </ul>            |
| 4<br>本時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>間違いを訂正し学校紹介の英文を正しく書くことができる</li> <li>できたホームページをもとに先生方やクラス全体に学校紹介ができる</li> <li>学校紹介の発表を聞いて理解することができる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介のホームページを仕上げる</li> <li>A L Tの先生やクラスに、できたホームページで学校紹介をする</li> <li>他のグループの発表を聞く</li> <li>単元の学習を振り返る</li> </ul> |   | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>発表</li> <li>ワークシート⑤</li> <li>自己評価</li> </ul> |

## 6 本時の展開

| 学習経過(時間)                                                  | 生徒の活動                                                                                                                                         | 教師の支援                                                                                                           | 評価の方法                                                                                | 指導技術及び教具                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| あいさつ<br>(3)                                               | ・あいさつと本時の学習内容、目標を確認する                                                                                                                         | ・あいさつと本時の学習内容、目標を伝える                                                                                            |                                                                                      | ・単元学習計画表                                                                                                         |
| 前時の復習<br>・語句や表現<br>(7)                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>教師の指示に従い復習事項の口頭練習</li> <li>語句や文章のビンゴ</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の復習</li> <li>練習やゲームを通して</li> </ul>                                     | ・観察                                                                                  | ・ワークシート                                                                                                          |
| 本時の学習<br>・調べ学習のまとめと発表<br>・ホームページ作成①<br>・ホームページ作成②<br>(20) | <ul style="list-style-type: none"> <li>前回から取り組んでいるホームページの下書きに取り組む</li> <li>下書きが完成したグループは発表用清書に取りかかる</li> <li>仕上がったグループは発表の練習</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>観察を通して生徒の作業の支援を行う</li> <li>作業中の英文で間違いなどについて指摘し気づかせる</li> </ul>           | ・観察                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>前回配布の資料、ワークシート</li> <li>ホームページ用紙</li> <li>前もって必要な写真や絵、資料について準備</li> </ul> |
| ・発表①<br><br>・発表②<br>(15)                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>A L Tの先生などへグループごとに学校紹介を行う。(全員が発表)</li> <li>グループの代表がクラスの前で発表する</li> <li>発表を聞いてわかったことや感想をまとめる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとの発表をローテーションで聞く(事前に依頼)</li> <li>各グループの代表にそれぞれの学校紹介を発表させる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表を聞く</li> <li>生徒の相互評価</li> <li>観察</li> </ul> | ・ホームページ発表会シート                                                                                                    |
| まとめ<br>(5)                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を振り返る</li> <li>自己評価を記入</li> </ul>                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習の様子を振り返りコメント</li> <li>自己評価に取り組ませる</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己評価</li> <li>豆テスト(後日実施)</li> </ul>        | ・自己評価用紙                                                                                                          |

## 7 仮説の検証と考察

研究仮説に基づいた検証授業実践を振り返り、書くことの指導を通して、生徒に基礎的・基本的事項の定着が見られたか、生徒の自己表現力を伸ばすことができたかについて、プレテストとポストテストの比較、アンケート結果の分析をもとに考察する。またコミュニケーションを意識した指導の視点から授業を振り返ってみる。

### (1) プレテストとポストテストに見る生徒の変容

プレテスト、ポストテストそれぞれにおいて、知識に関する問題を10点、表現に関する問題を10点出題した。観点別評価の基準に沿って達成度を、十分満足(80%以上)、おおむね満足(40%以上80%未満)、

努力を要する(40%未満)とし評価する。

### ① 知識に関する問題

語彙に関する知識について、school, subject, studyなど、学校生活に関する単語を書く形式で出題した。プレテストにおいては、4点以下の生徒が40%、8点以上の生徒が20%と、語彙の定着が不十分であることが伺えた。絶対的に書くドリルの活動の不足が、その大きな原因だと思われる。その後のポストテストにおいて、4点以下の生徒が約半数に減少し8点以上の生徒が48%と増加が見られる(図4)。語彙の学習を通して、それらに親しむことができ学習したことを実際に使用することにより定着が促されたと思われる。

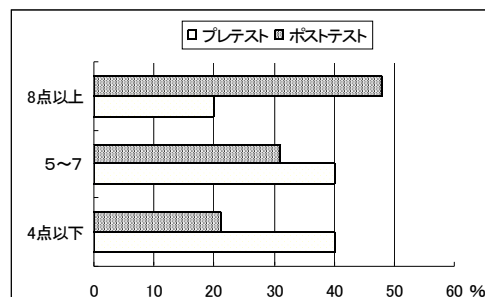


図4 知識に関する変容

### ② 表現に関する問題

表現については、学校についての英文を2つ以上書く形式で出題した。予想していた回答は、studyやplayなどを使った学校生活についての文であった。プレテストでは無回答の生徒が圧倒的に多く60%を占め、単語だけでも何か表現しようと努力した生徒が20%、一方2文を書くことが出来た生徒は10%であった。「難しい」、「わからない」と書くことをあきらめる生徒が多かった。ポストテストでは、4点以下の生徒が58%と減少した。一方5点以上の得点も若干増加は見られるが、英語で書くことに関しては半数以上の生徒の達成度が不十分である(図5)。特に低学年においては、語彙や文型の定着のためのドリル活動を十分行った後、発展的活動へとライティングのプロセスを踏まえた、継続的な書くことの指導が必要である。

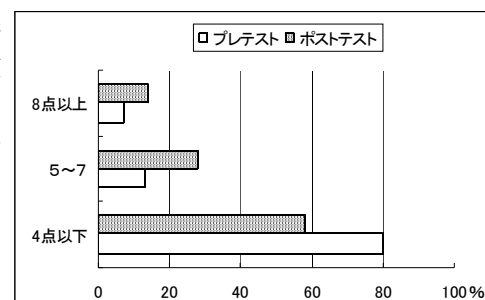


図5 表現に関する変容

### ③ 表現に関する意識の変化

授業の前後における、表現に関する生徒の意識の変化を生徒個々に対してプレテストとポストテストで比較する。プレテストでは無回答であった生徒が、ポストテストでは、単語で表現する努力が見える、1文から2文へと書ける文の数が増えたなど、書く単語や文の数が増えた生徒の割合が55%であった。言語活動を通して、語彙や表現を知ることができ、英語で表現することに対して意欲が出てきたこと、間違いに気づき、より正確に書くことができるようになったなどが、その理由として考えられる。しかし一方で、前回と同じ表現量である生徒が45%、その中には無回答の生徒が31%が含まれる。この事実から、低学年での基礎的基本的事項定着の観点からの言語活動の取り扱いや、下位の生徒への個々の支援等は今後の課題である。

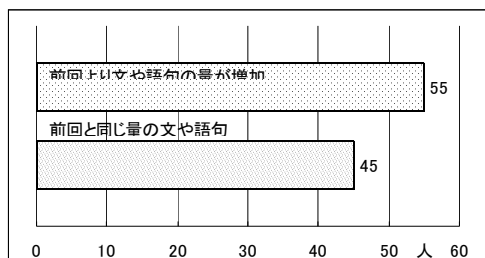


図6 表現に対する意識の変容

## (2) アンケートの結果や自己評価に見る生徒の意識の変容

昨年10月と、検証授業後の1月にアンケートを実施した。今後身につけたい英語の技能について、検証授業後のアンケートにおいて顕著な変化が現われたのは、書く力をつけたいと答える生徒が38%に大幅に増加したことである。話す力と合わせると、生徒たちの多くが、英語で話したり書いたり表現できるようになりたいと考えるようになったことが表れている。また授業を終えての生徒の声では、「楽しく取り組めた」や「勉強になった」、「単語が読めるようになった」など、充実感を感じているようすが伺える。

今後生徒が英語で書いてみたいと挙げた事柄を表5にまとめた。検証授業のシミュレーションのホームページ作成を通して、自分たちの学校を紹介する活動をやり遂げたという充実感や、自分にもできるという自信につながり、今後の自己表現に対しての意欲がでてきたのではないかと考える。また図8で

表5 次に英語で書いてみたいこと

- ・地域の紹介の文 ・中学校の歴史 ・沖縄の観光地
- ・世界の国旗の紹介 ・手紙 ・英語の新聞 ・詩
- ・簡単な英語の文 ・もっと長い文 ・Eメール
- ・英語の曲 ・名刺 ・日本語の歌詞の英訳
- ・日記や本 ・ホームページ ・家族の紹介 ・紙芝居

は、生徒が今後授業でやってみたいと挙げた活動を示す。ドリルの活動に加え、自己表現活動に対しての意欲がこれからも感じられる。特にホームページ作成に対しては4割近い生徒が関心を示している。生徒の将来的な実践的コミュニケーション能力の育成の観点から自己表現活動を授業に取り入れることは有効であると考ええる。

一方アンケートにおいて、46%の生徒が書く力の定着についてまだ不十分だと感じている。授業におけるコミュニケーションの取り組みを通して、生徒自身がその事実に気づき、今後さらに基礎的基本的事項の定着のためのドリルの活動の必要性を感じていると思われる。

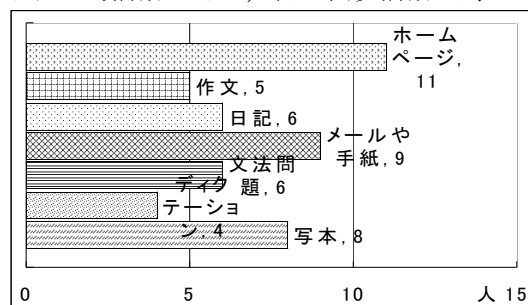


図8 授業でやってみたい書く活動(複数回答)

### (3) コミュニケーションを意識した指導

検証授業で行った言語活動の性質をCommunication Diagramにより分析する。検証授業におけるライティングのプロセスを、語彙や文型の提示や意味理解 a、練習を b、実際の表現活動を c、発表を d として当てはめると図9のようになる。本研究では、書くことを通して生徒の自己表現に対する意識が高まったことが成果である。今後も、わかるための学習指導から慣れるための学習指導へとプロセスに沿った指導を実践することで、生徒の自己表現力の育成へつながるであろう。

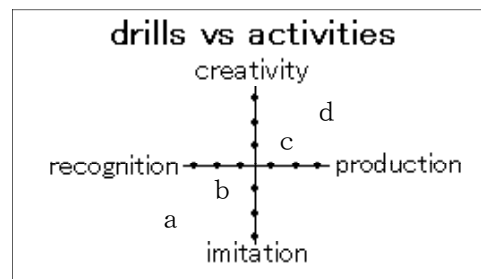


図9 言語活動の性質

## IV まとめと今後の課題

「音声指導に書くことを併せた指導で、基礎的基本的事項の定着を図り、コミュニケーションを取り入れた言語活動を行うことで、生徒の自己表現力が伸びるであろう」との仮説のもと研究を進めてきた。以下に成果と課題をまとめる。

### 1 成果

- (1) コミュニケーションを取り入れた言語活動において、全員が参加し発表する設定により、生徒の書くことに対する意識が高まった。
- (2) 英語の音声中心の指導に書くことを取り入れ、各技能を統合した指導により知識面、情意面で向上が見られた。
- (3) 書くことにより生徒の語彙や文型の学習事項の記憶が促され基礎的基本的事項の定着につながった。
- (4) 語彙や文型の提示により、生徒が抵抗感を持つこともなく活動に取り組むことができた。
- (5) 書くことでその語彙が読めるようになり、さらに文字として表記されていることで、英語が苦手な生徒でも安心感を持って自己表現活動に取り組むことができた。

### 2 課題

- (1) ポストテストで無回答であった生徒や下位の生徒への個々の支援を含めた対策を考える必要がある。
- (2) より創造性の高い自己表現活動とするため、十分なドリルの活動が必要である。
- (3) コミュニケーションは、生徒へタスクの提示、表現する情報収集、語彙や文型復習や未習語の提示や練習、実際に書く時間、添削、発表と一連の活動に大変時間がかかる。年間指導計画を立てる段階で、学期ごとや単元ごとなど、どこにその活動を組み込むか、具体的な指導計画が必要である。

### 3 終わりに

「将来英語で書いたり話したりコミュニケーションをしたいですか」との問いには、100%の生徒が「はい」と答えた。このような生徒の意欲や興味をさらに伸ばし、英語を使える生徒の育成のためにさらに研究を深めていきたい。今後も音声重視の指導に書くことも取り入れた指導を工夫することにより、生徒たちの基礎的基本的事項の定着、さらには自己表現力を伸ばすための授業実践に取り組んでいきたい。

### <主な参考文献>

- 杉本義美 2006 『中学校英語授業指導と評価の実際』 大修館書店  
 田中武夫・田中知聡 2005 『自己表現活動』を取り入れた英語授業 大修館書店  
 伊東治己 2003 『コミュニケーションのための4技能の指導』 教育出版